

聖マリアンナ医大新聞		主な内容
聖マリアンナ医科大学・新聞編集委員会 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1 ☎044-977-8111(代) 総務課 http://www.marianna-u.ac.jp		令和5年度 医学部 卒業証書・学位記授与式 / (第1面) 看護専門学校 卒業証書授与式 / 他
		受賞者からひとこと (第2・3面)
		令和5年度大学院医学研究科 学位記授与式 / 他 (第4面)
		東横病院閉院式 (第5面)
		北川学長が「Coe Medal」を受賞 / 他 (第6面)
		令和6年度医学部入学式 看護専門学校入学式 / 他 (第7面)
		就任のあいさつ / 他 (第8面)
		能登半島地震 DMAT (災害派遣医療チーム) 派遣 (第9面)
		科学研究費補助金・交付決定者一覧 / 他 (第10・11面)
		令和5年度 国家試験結果報告 / 附属病院・施設だより (第12面)

令和 5 年度 第 48 回 医学部医学科 卒業証書・学位記授与式

さんとうこぼくのはな
『三冬枯木花』これまでの努力が
医学の道を切り拓く

第 48 回医学部医学科卒業証書・学位記授与式は 3 月 1 日(金)午後 1 時より医学部本館 6 階大講堂で執り行われた。長らく続いたコロナ禍が明け、久しぶりに開放的な卒業式となった。

今年度の卒業生は 107 名。一人ひとりに北川博昭学長より卒業証書・学位記が手渡された。続いて「明石賞」、「医学会賞」、「聖医会賞」、「保護者会賞」が表彰された。(2 面に受賞者の声)

学事報告では加藤智啓医学部長より、「諸君は 6 年間の厳しい医学の道を切磋琢磨し、総時間数 7,354 時間を履修し、所定の課程を修了いたしました。これにより『生命の尊厳』について深い認識を持ち、人類社会に奉仕し得る医師となるために、正しく判断・行動し、それらを生涯にわたって実践し得る基礎を確立するという、本学のディプロマ・ポリシーを達成しました」と報告された。



加藤智啓 医学部長



北川博昭 学長

北川博昭学長は式辞で「先日、ある茶室の掛け軸に『三冬枯木花(さんとうこぼくのはな)』という言葉を見かけました。冬の寒さにじっと耐え、春を待つ枯木を意味するそうです。諸君が本学で過ごした 6 年間は、まさに“枯木”の時期に当たります。厳しい寒さに耐えた梅が薫り高く鮮やかな花を咲かせるように、諸君が医学の基礎を確立するために取り組んだ経験は、いずれ輝かしい業績となって結実することでしょう。世界では戦争や紛争が続発し、また、国内では若者が凶悪犯罪に手を染めるなど、難しい時代を迎えています。本学建学の精神を忘れず、“人類社会に奉仕し得る医師”として、困難に立ち向かってください」との言葉を贈った。

三宅良彦顧問は祝辞で「皆さんが過ごした 6 年間のうち、3 年間は新型コロナ・パンデミックという未曾有



北川博昭学長より卒業証書を授与される佐久間萌音さん

の天災との闘いでした。学生生活にも大きな影響が及びましたが、様々な工夫を凝らしてそれらの困難を何とか乗り越え、本日の卒業式を迎えることができました。皆さんは、いよいよドクターとしての道を歩むわけですが、その道のりは決して容易くはないでしょう。医師として厳しい選択を迫られることもあるでしょう。生活環境や生活信条は人それぞれで、全く同じ病態の患者さんは存在しません。故に診療ガイドラインやマニュアルの知識だけでは対処できない局面にも出くわすでしょう。しかし、そのような厳しいときこそ医師としての腕の見せ所です。学んだ知識を応用し、最良の診療を見出していくのです。そのため



三宅良彦 顧問

には日々の研鑽が重要です。今後も知識や技術の向上に努め、輝くドクターとして『愛ある医療』を提供できる医師になってください」と大海原へ船出する卒業生を激励した。

聖医会の岸忠宏会長からも、「マリアンナスピリットを忘れる事無く、自信を持って研修に励み、人から愛され、信頼される医師になれるよう精進してください」と激励があった。

続いて卒業生代表による宣誓、送辞・答辞(2 面に詳細)記念品(ステンドグラス)の寄贈、小田武彦司祭(宗教学特任教授)による祈願が行われた。この日、多くの祝福と激励を受け、卒業生たちは感慨深く医療人への道を踏み出した。



岸 忠宏 聖医会長

令和 5 年度 第 45 回 看護専門学校 卒業証書授与式

謙虚に学び続け、感謝の気持ちを忘れずに

第 45 回看護専門学校卒業証書授与式は、3 月 7 日(木)午後 1 時より医学部本館 6 階大講堂で挙行政され、74 名の卒業生が鈴木昌子校長から卒業

証書を手渡された。また「理事長賞」「同窓会賞」「皆勤賞」が表彰された。(3 面に受賞者の声)

式辞で鈴木校長は「皆さんの本校での学びの日々は、徹底した感染予防対策のもと、環境の変化に適応しつつ、できることを拡大しながら目標を達成するために歩み続けた 3 年間でした。その中で多くの人々に出会い、学びを得てきました。しかし、これで終わりではありません。医療は日進月歩であり、看護の学びに終わりはありません。これからも謙虚に学び続け、感謝の気持ちを忘れずに、自ら希望の道を切り開いてください」と式辞を述べた。



鈴木校長より卒業証書を授与される益山蓮さん

せん。これからも謙虚に学び続け、感謝の気持ちを忘れずに、自ら希望の道を切り開いてください」と式辞を述べた。

北川博昭学長は、「昨年訪れたラオスの大学病院では、十分な医療機器が無く、エアコンすら完備されていない環境にあって、医師や看護師たちは患者さんの話や触診・聴診などから診断を下し、手術をも上手に行っていました。ハイテク機械が使えない分、患者さんに現れる微妙な変化を見逃すまいとする彼らの真剣な眼差しに、医療の原点を見た気がしま



鈴木昌子 校長

した。医学は日々進歩していますが、患者さんに寄り添う姿勢が大切なことは何時の時代も変わりません。ナイチンゲールの『看護覚え書』にもあるように、“患者が何を感じているかを、患者に辛い思いをさせて言わせることなく、患者の表情に現れるあらゆる変化から読みとることができ”看護師になってください」と激励した。

三宅良彦顧問からも、「医療は凄まじい勢いで進歩していますが、患者さんに寄り添う心は何時の時代も変わりません。医療の知識や技術とともに、患者さんに対する優しさも大切にしてください」と祝辞があり、続く近藤昭子東横病院看護部長からも祝辞として激励の言葉が述べられた。

このあと卒業生代表が挨拶をし(3 面に詳細)、小田武彦司祭が祝福の祈りをささげた。卒業生たちの輝かしい前途を願う心のこもった卒業証書授与式となった。

春夏秋冬

富士山の姿

毎朝の通勤途中、電車やバスの車窓から富士山が見えるときがある。もちろんその日の天気によって左右されるが、今年も冬の空気が澄みわたる朝にはしばしば

よく見えた。一日の始まりに思いがけず綺麗な富士山の姿が目の前に現れたときの気分はなかなかよいものである。

本学の教育棟や新入院棟でも高層階から富士山はよく見え、一度夕方に病棟の窓から富士山がシルエットとして浮かんでいるさまが美しく、思わず携帯

で写真を撮っていたら数名の医局員がなにか良いものでも見えますか?と集まってきて少し気恥ずかしかった。

ご存じのように富士山は静岡県と山梨県とにまたがり、それぞれから見える姿は微妙に異なる。両県の方々にはそれぞれ思い入れがおりのおりで、その姿の話が出るとどちら

がより美しいか、思いがけず県同士のライバル感?に遭遇することもある。神奈川からは若干遠目に見ることになるが、その姿に対する思い入れはいかなのであろうか?

以前にテレビのプラタモリなどで、なぜ富士山は美しいかについて考察していた。ひとつには溶岩の硬さと粘

り気がちょうど良かったためにあの美しい裾野を形成したとのこと。さらに度重なる噴火が山肌を崩れなどをうまく修復したこと、地球のプレートが今も富士山を押し上げ続けていることも一役買っているらしい。そういった壮大で長い地球の歴史が背後にあることに思いをはせながら綺麗な

富士山を眺めると、どこにもありがたないパワーを分けてもらえる感じがしてくる。今年も四季折々のふとした瞬間に美しい富士山の姿に出会えることに期待することにしよう。

消化器内科学 主任教授
立石敬介

医 学 部



第 48 回 医学部卒業式 集合写真

受賞者からひとこと

明 石 賞

佐久間 萌音



素晴らしい賞を受賞することができ、大変光栄に思います。ここまで勉強に力を入れることができたのは、家族や友人、先輩、後輩など多くの方々に支えられてきたおかげだと感謝しています。特に部活動を続けたことで切磋琢磨できる仲間に出会い、勉強のリフレッシュにもなりました。今後もこの賞に恥じないように自己研鑽に努めていきます。後輩の皆さん、6 年間はととても早く過ぎ去ります。後悔のないよう全力で楽しんでください。

明 石 賞

白鳥 智子



この度は明石賞をいただき、誠に光栄に思います。定期テストや課題などに真面目に取り組んだだけでなく、友人と切磋琢磨しあい、分からないところを共に考え、解決する、というプロセスで6年間学び続けられたことの結果だと思います。支えあってきた友人、また学業に専念できるよう環境を整えてくださった先生方に感謝しております。今後も、生涯を通して学び、その学びを患者さんへ還元できるよう努力していきたいです。

明 石 賞

小海 優



明石賞に選出されたこと、至極光栄に思います。私はこの6年間、学友たちと多くの時間を共有して感じたことがあります。それは、48 期生は皆優秀であるということです。勤勉であり、人柄もよく、素晴らしい学友たちに恵まれたと思っています。皆がニュータイプの医師として活躍していくと確信しております。後輩のみなさん、悔いのない学生生活を謳歌してください。

医学会賞

松平 珠緒



学生生活では、勉強だけでなく、部活動や研究室配属、海外研修など、様々なことに興味を持ちチャレンジしました。私が6年間を通して頑張ってきたのは、丁寧に指導くださった先生方や常に応援してくれた先輩や後輩、そして家族のおかげです。また、切磋琢磨しながら共に支え合える仲間に出会ったことは、一生の財産です。本学で学んだことを糧に、自己研鑽を続け、患者さんに信頼される医師を目指して努力していきます。

聖医会賞

遊木 駿



学業に限らず、部活動や国試対策委員の活動も評価していただき、大変光栄に思います。バスケットボール部では、ときには衝突しながらもチーム一丸となって大会に臨んだことが印象に残っています。様々な苦楽をともにしたかけがえのない仲間に出会えたことは、生涯の財産になると思います。後輩のみなさん、6 年間はあっという間に過ぎていきます。学業も大切ですが、様々なことにチャレンジして充実した学生生活を送ってください。

保護者会賞

林 美音



今回受賞できたのは、支えてくれた家族や同期の仲間、先輩・後輩、そしてご指導くださった先生方のおかげだと感じています。ありがとうございます。私は1年生の時にスカッシュ同好会を設立し、沢山悩み、同期とぶつかってしまった時もありました。しかしその仲間は色々な形で同好会を盛り上げ、支えとなってくれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。医師となってからも感謝を忘れずに精進していきます。

一選考基準一

- ◆明石賞
6年間を通して成績が優秀であった者
- ◆医学会賞
卒業時の成績が優秀であった者
- ◆聖医会賞
成績が優秀で学生自治会等において活動が著しく将来本学への貢献が期待できる者
- ◆保護者会賞
学生生活の活性化及び社会活動に貢献した者

宣 誓



卒業生代表
土屋 力

本日、私たちは卒業式を迎えることができました。今日まで私たちをご指導くださった先生方や職員の皆様、そして家族に心より感謝申し上げます。私たちは、本学において日々医学について学んできました。臨床実習では様々な背景を持つ人々と接し、多くのことを学ばせていただきました。そして、楽しいことや辛いことなど多くのことを経験し、人間性を養い、育んできました。新型コロナウイルスの流行時期には学生生活が一変し、多くの困難が訪れましたが、教職員の方々や家族などの支えにより、今日という日を迎えることができました。私たちは、目覚ましく進歩する医学について日々研鑽し、さらなる医学の発展に寄与すること、そして本学で学んだ人類愛の下に、生命に対し誠心誠意尽くすことを、第48回卒業生を代表し、ここに宣誓いたします。

送 辞



在校生代表 5年
金 峰世

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在学生一同、心よりお喜び申し上げます。これまで私達はいつも先輩方の背中を追いかけ、支えられてきました。先輩方は、私達を導き、励まし、手を差し伸べてくださいました。先輩方との日々は、かけがえのない思い出です。4月から医師として臨床の場に立たれますが、「生命の尊厳」を基調とし、愛にあふれた医療人として、無限の可能性を秘めた未来に羽ばたく先輩方を、在学生一同、心から応援しています。先輩方が築き上げた伝統を守り、後の世代へと受け継ぎ、先輩方が誇りをもてる母校であり続けるよう努力してまいります。最後に、卒業生の皆様のご健康と、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。本日はご卒業、誠にありがとうございます。

答 辞



卒業生代表
菅家由美子

本日は、北川学長をはじめ多くの皆様のご臨席を賜り、このような素晴らしい式典を開催いただき、卒業生一同心より感謝申し上げます。6年前、夢と希望に胸を膨らませて入学式を迎えたことをつい昨日のこのように思い出します。今、あの時と同じ場所で、無事に卒業式を迎えることができ、大変感慨深い気持ちです。6年間の学生生活の中で、困難に直面し、挫けそうになったこともありました。その度に、支え、励ましてくれた同級生や家族には、感謝してもしきれない思いです。私たちは4月から医師として新たな一歩を踏み出しますが、医師としての使命を忘れず、本学で学んだ「生命の尊厳」や「人類愛」を胸に、一生研鑽を積んでいくことを誓います。在学生の皆さん、自分を信じて前に進んでください。皆さんが充実した学生生活を送ることを願っております。私たちが今日、この日を迎えることができたのも、教職員の皆様や家族、これまで支えてくださった全ての皆様のお力添えのお陰です。卒業生一同、重ねてお礼申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

看護専門学校



第 45 回 看護専門学校卒業式 集合写真

受賞者からひとこと

理事長賞

貴田 星羅

この度は、理事長賞をいただくことができ、誠に光栄に思います。この表彰は私個人の力ではなく、これまで自分を指導して育ててくださった先生方や、自分を支えてくれた友達のお陰であると痛感しております。本当にありがとうございます。3年間を通して印象に残っていることは、領域別実習です。今までの実習とは少し変わり、小児や母性、在



宅など色々な所に実習に行き多くのことを学ぶことができました。また、6クールを続けて行うため、頭の中で切り替えをして次の実習に行く必要があったため、印象に残っています。また、辛く大変な時期もありましたが、患者さんが必死にリハビリに取り組まれている姿や患者さんからの「応援しているからね」といった優しい言葉に励まされ、実習グループのメンバー同士支え合いながら、乗り越えることができました。後輩達と関わる機会は少なかったですが、現2年生は領域別実習やそ

れが終わると卒業に向けて卒業試験と、大変になると思いますが、終わってみるとあっという間だったと感じるので、友達や先生に遠慮せずに頼って頑張ってください。現1年生は事例が増えて課題も多くなると思いますが、溜めずに少しずつやっていけば必ず終わるので頑張ってください。これから3年間で学んだことを忘れずに、自分なりに努力して看護師として看護ができるように精進していきます。

皆勤賞

大久保 愛海



私は高校生から皆勤賞を受賞しており、長所は身体が丈夫であることです。つらい時期が続いても学校とプライベートの時間をしっかりメリハリをつけ過ごしました。一番大変だった専門学校でもこの皆勤賞をとることができとても嬉しいです。この誇りを胸に看護師としても頑張っていきたいです。1年生では多くの試験があり、2年生では多くの事例展開が、3年生では多くの実習があり大変でない年はありませんが、感染予防をしっかり行い、忙しい中でも食事や睡眠をしっかりとり、周りの人に支えられながら乗り越えてほしいです。

同窓会賞

福井 美紅

この度は同窓会賞をいただき、大変光栄に思っております。私個人の力ではなく、家族や友人、仲間、先生方、看護師さん、患者さん、などなどのおかげでこのような素敵な賞を受賞することができました。夢に向かって一步一步、共に前へと進んできてくださった全ての方々から感謝の気持ちでいっぱいです。振り返ると、聖マリアンナ医科大学看護専門学校の看護学生として過ごした時間は怒涛の日々でした。恵ま



れた環境で学びを深めることができたことにより、人としても看護師を志す身としても少しずつ成長できたかなと思います。また、悲しみや苦しみの先には幸せが待っていることを何度も実感させられ、この3年間はかけがえのない宝物となりました。常に楽しむ姿勢を持つことを心掛けていましたが、時には涙することもありました。特に、自身の難聴に伴う悔しさと不安から涙を流す日が多くあったことを思い出します。ハンデを開示して助けを求めることへの抵抗があったり、マスク越しの会話に苦労したり、聴診器の音は聞こえなかったり、補聴器を装着している

ため湿気の多い場所でのケアが行えなかったりとさまざまな困難に直面し、私には看護師は務まらないと思う挫折を経験しました。しかし、実習にて患者さんから「あなたが側にいてくれて安心した」「あなたはよく気付いてくれる」と言ってくださったこともあり、私でもお役に立てることがあるのだと、この上ない喜びを感じました。難聴である私だからこその強みを活かしていきながら、患者さんの心身に寄り添い安心感のある看護を提供できるよう、これからも人一倍努力し続けていきたいです。

— 選考基準 —

- ◆ 理事長賞
資性温厚で、成績優秀な者
- ◆ 同窓会賞
学生間の人望が厚く、学業に秀れ、卒業後も同窓会の発展に努めることが期待される者
- ◆ 皆勤賞
在学中に皆勤した者

送 辞



在校生代表
たけうち のぶこ
竹内 信子

桜の花芽が膨らみ始め、ゆっくりと春めいてまいりました。卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。思えば2年前の春、入学して間もなく慣れない環境に戸惑う私たちの面倒を見てくださった先輩方の姿は、とても心強い存在でした。また、学校生活の不安などについてご相談させていただいた際に優しくアドバイスしてくださったり、委員会や特別教育活動の際に私たちを率いてくださったりした先輩方の姿は、私たちにとってとても偉大でした。昨年12月には、4年ぶりとな

るキャンドルサービスを各附属病院で実施しましたが、私たちはもちろん先輩方にとっても初めてのキャンドルサービスだったにもかかわらず、不安な表情など一切見せず、全校生徒を優しく率いて患者様の笑顔溢れる素晴らしいイベントにしてくださった先輩方の姿は私たちの憧れでした。先輩方が大切にしてくられた良き伝統を、私たちもしっかりと引き継いでいきたいと思います。これまで先輩方と同じ時間を共有できたことを嬉しく思い、また、多くのことを学ばせていただいたことに感謝を申し上げます。先輩方との出会いを通じて学ばせていただいたことは、今後の学校生活やその先の社会生活において活かしていきます。先輩方のこれからの一層のご活躍をお祈りしています。

答 辞



卒業生代表
なかむら あゆみ
中村 亜由美

本日は私たち卒業生のために、素晴らしい式典を挙げてくださり、誠にありがとうございます。思い起こせば3年前、大きな希望と不安を抱いて入学式に出席したことを昨日の日のように覚えています。それから、あっという間の3年間でしたが、その一日一日はとても充実した毎日でした。不安や焦りを感じることもありましたが、その度に教職員の皆様や先輩方、家族や仲間を支えられ、乗り越えてきました。実習では患者様にも励ましていただきました。苦しみを抱えられている患者様にどう接して差し上げるべきか。実習中の私たちに悩みは尽きませんでした。講

義中に学んだことを反芻し、病棟スタッフの皆様や先生方からアドバイスをいただきながら必死に取り組む私たちに、患者様は温かい笑顔や優しい言葉で接してくださいました。患者様の「ありがとう」という言葉に私たちは大いに励まされ、患者様の傍に寄り添うことの大切さを学びました。私たちは本校を卒業し、看護師としてスタートを切ります。3年間で学んだことを活かし、初心を忘れず、患者様に寄り添った看護を実践していきたいと思えます。そして、卒業後も日々学び続け、それぞれの目指す看護師像に向かって努力を惜しまずに進んでいきます。今日まで私たちを支えてくださった教職員の皆様、並びにご来賓の皆様、いつも温かく見守ってくださったご家族の皆様へ改めて御礼申し上げます。伝統ある本校のより一層の発展をお祈りし、卒業生代表のことばとさせていただきます。

令和 5 年度

大学院医学研究科 学位記授与式

大学院入試委員長 高田 礼子

令和 6 年 3 月 27 日に、本学大学院の学位記授与式が執り行われました。

今回は、新型コロナウイルス感染症による制限が緩和され、教職員、新医学博士のご家族がこれまで通り参加できるようになりました。当日は、北川博昭学長、加藤智啓医学部長、遊道雄研究科長をはじめ、新医学博士及び指導教授・准教授がアカデミックガウンを身に纏う厳かな式典となりました。

式典では、北川学長より新医学博士一人ひとりに学位記が手渡され、祝辞が述べられました。この際、令

和 5 年度学位授与者の中から、優秀な論文を発表した小牧玲雄氏〔皮膚科学〕、木下康平氏〔最新医学研究コース〕、小関昭仁氏〔最新医学研究コース〕の 3 名に優秀学位論文賞が授与されました。

また、宮垣朝光准教授〔皮膚科学〕、森川慶講師〔呼吸器内科学〕、佐藤知雄准教授〔難治性疾患病態制御学〕に優秀指導賞が授与されました。これらの受賞論文を含め、学位論文の多くが国際的な学術専門誌に掲載されるようになってきており、今後も益々優れた学位論文が発表されるこ

とが期待されます。

遊道研究科長からも祝辞が述べられ、優秀学位論文賞を受賞した小牧玲雄氏が答辞を述べた後、小田神父による祈願が執り行われ、学位記授与式は厳粛な雰囲気のもと終了しました。式典後には参加者による集合写真を撮影し、新医学博士及び本学の医学研究の発展を祈念し全員が想いを共有する時間となりました。

大学院には、次世代の医学教育、研究並びに医療を担う有能な医療人・医学専門家を養成し、医療と学術研究の発展向上を通じて社会の充実に

貢献することが求められています。今後も多くの方が、大学院に進学されることを期待しております。



優秀指導賞を受賞した
森川慶講師（左）、宮垣朝光准教授（中央）、
佐藤知雄准教授（右）



優秀学位論文賞を受賞した
小牧玲雄氏（左）、小関昭仁氏（右）



クリニカルクラークシップ スチューデント

宣誓式

2023 年 12 月 22 日（金）午後 3 時から、医学部本館 6 階大講堂において、新たに臨床実習に臨む医学部第 4 学年学生のクリニカルクラークシップスチューデント宣誓式が挙行され、出席した 106 名の学生に対し、臨床実習生としての自覚を新たにするため、大学からケーシー、聖医会から白衣をそれぞれ贈呈された。

本式は、2014 年度より臨床実習前共用試験（CBT・OSCE）に合格した一定水準の医学知識・診療技能及び態度を有することが認められた医学生をスチューデントドクターと認め、臨床実習開始前に医療に携わる責任感、医師としての使命感を再認

識させることを目的に開催されてきたが、共用試験公的化に伴い、試験合格者をクリニカルクラークシップスチューデント（臨床実習生（医学））と呼称するようになったことから、今年度よりクリニカルクラークシップスチューデント宣誓式と名称を変更した。

式に先立ち、北川学長から「臨床実習を通じて、患者に納得してもらえる医師になるために知識を積み重ねながら、コミュニケーションを大切すること、そして臨床現場で指導していただく医師の背中を見て、自分の将来像を頭に描き、その夢に向かって進んで欲しい」と式辞が述べられた。

続いて、学生代表の潮 るか君から、「周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、仲間と共に助け合い、患者さん一人一人と真摯に向き合いながら、臨床実習に臨みます」と 4 年生全員で作成した宣誓文が読み上げられた。

また、祝辞では、加藤医学部長、川畑カリキュラム委員長から、それぞれ臨床

実習での心構えと、激励の言葉が贈られ、参列者一同が 4 年生の新たな門出を祝福した。

教学部 教育課 主事 岩下淳一郎



令和 5 年度 定年退職者一覧			
区分	所属	役職名	氏名
医 学 部	形成外科学	教 授	相原 正記
	循環器内科学	教 授	原田 智雄
	消化器・一般外科学	教 授	國場 幸均
	耳鼻咽喉科学	准 教 授	晝間 清
	アイソトープ研究施設	講 師	廣井 朋子
	脳神経内科学	講 師	柳澤 俊之
	乳腺・内分泌外科学	講 師	矢吹由香里
	脳神経内科学	講 師	大島 淳
	小児科	助 教	小野 朋洋
	循環器内科学	助 教	吉田 浩幸
	救急総合診療	助 教	井上 哲也
	微生物学	主 査	高橋 美穂
	解剖学	主 査	星野 誠子
	調達部	執行役員	根津 保廣
	学務課	主 任	青木美香子
	ナースサポートセンター	主 幹	村尾 博子
大学病院	薬剤部	主 査	樗木 大己
	看護部	担当部長	久永加代子
	看護部	担当部長	伴 真理子
	外来	主 任	城所 佳子
	腫瘍センター	主 任	久保寺由賀理

区分	所属	役職名	氏名
大学病院	9 西病棟	師 長	菅野八重子
	外来	副 師 長	本間久美子
	8 南病棟	師 長	角田由美子
	看護部	師 長	梶ヶ谷和子
	外来	看 護 師	遠藤 直実
	11 東病棟	副 師 長	百鳥 尚子
	画像センター（看護）		田嶋由香里
	看護部	師 長	沼里 貞子
	EICU		箕輪 由美
	画像センター（看護）		澁谷 洋子
	治験管理室	課長補佐	小池 典子
	薬剤部	課 長	大塚 一興
	臨床検査技術部	主 任	葩島 皆子
	臨床検査技術部	主 幹	赤津 哲
東横病院	医事課	主 事	野田 七恵
西部病院	医療安全管理室	参 事	森下 弘之
	総務課	主 幹	石井与志一
	総務課	課長補佐	平野 佳久
	周産期センター新生児部門	主 任	大湯 恵
	救命救急センター（看）	主 任	太田 直美
	臨床検査部	主 幹	斎藤 祥子
多摩病院	3 西病棟	副 師 長	下妻 早苗
	看護部	副 部 長	野崎 美穂
	画像診断部	技術課長	大内 幸敏
看護学校	看護専門学校	教 員	吉村 純子

お宝紹介

生理学教室にお宝があるのをご存知でしょうか？ 本学名誉教授（生理学）豊田順一先生から当教室へ託された鋏（はさみ）なのですが、単なる鋏ではありません。実はこれ、1967 年度のノーベル生理学・医学賞を受賞した H.K.Hartline 博士が自作した鋏で、博士の研究をサポートされた豊田先生に感謝の意を込めて贈呈された貴重な品なのです。

豊田先生によれば、視細胞の研究で有名な Hartline 博士は、網膜の表面から視神経の細い束を切り出す際にこの鋏を使用されていたそうです。全てが手作りで、博士自ら炭素鋼を研いで刃を作り、半田付けして仕上げていたというこの貴重な鋏ですが、現在では当教室内で大切に保管され、研究のシンボルとして代々受け継がれています。

（総務課）



聖マリアンナ医科大学東横病院閉院式

本学発祥の地、そこに残した歴史、功績は永久に

2024年3月21日(木)17時15分より、東横病院管理棟5階にて閉院式が開催された。

当日は理事長、理事、顧問、監事の法人役員等および歴代病院長として舟木成樹先生、歴代看護部長として林芳子さん、倉岡圭子さん、院内教職員約80名の参列があった。

定刻に開始し、第13代東横病院長古畑智久先生より病院長挨拶が行われた。

続いて明石理事長は「15年ほど前、川崎市立多摩病院を受託する時に大分老朽化した東横病院の議論があった。発祥の地という思いもあり存続を考えた結果、小規模な高機能病院という形で再出発をお願いした。その後予想に反し周辺の大規模病院がかなり活性化し、我々が予定してい

た症例数の確保が難しくなった。それでも何とかならないかということで役員会でも様々な提案がされ、診療科、スタッフの再編や変更など様々な努力をしてきたが、ついに大学病院自体が医師確保に難渋する時代がやって来た。勢力の分散よりも集中する判断に至り、苦渋の決断で東横病院の閉院を決定した。何とかしたい思いから、最後に回復期への機能変更を提案したが、方向性が定まらずに閉院に至ったことでご迷惑をおかけした。今一度お詫び申し上げる。

閉院を決断した後も世の中は大きく動いている。想定外の少子高齢化、人口減少が各方面でボディーブローのように効いてきている。その中で、4病院1クリニック体制で小さな医科大学が活躍、活動していくのは困難な状況に陥っている。これからは3病院1クリニック体制で我々がすべきミッションを果たしていきたい。引き続きご尽力の程よろしく願います。

何度も話しているが、私は東横病院で生まれて大学卒業まで武蔵小杉で暮らして

いた。東横病院は閉院となるが生まれ故郷は武蔵小杉という意識は私の中にはある。聖マリアンナ医科大学としても武蔵小杉は特別な地であり、そこに残した歴史、功績は将来にわたって忘れてはいけないと思っている。東横病院に係ってくださった皆さまには、これまで東横病院に係れたことを誇りに思っていたきたい」と述べた。

続いて北川学長は「私自身は本学の4回生で、第1外科の渡邊弘先生が東横病院長の時代に研修に来ていた。盲腸の手術を1回生の舟木先生とやっていた時代もあり、“ちっともうまくならないな”と言われたことが思い出される。初めての手術の時は、一緒に入った先生に食事をご馳走するのが習慣だった。外科の当直は呼吸器、心臓、小児が一緒の体制で、救急車は界限で泥酔した患者ばかりが運ばれた。古い建物で6階小児病棟は後から作ったため天井が低かった。NICUもあり多くの小児科医が研鑽を積んだ。いろいろ思い出されるが、卒業生にとっては良いトレーニングの場であり、多

くの先生方に大学の教育に十分に貢献をしていただいた。

今年の国試は創立以来過去最高の合格率となり、教育も充実してきている。ここで培った皆さんの力を借りて飛躍していきたい。本当に今までありがとうございます」と述べた。

続いて小田武彦司祭の感謝の祈りでは、三宅顧問、第11代病院長舟木成樹先生(2006年1月～2014年3月)、林芳子元看護部長(2007年4月～2011年3月)、倉岡圭子看護部長(2011年4月～2020年3月)による東横の歴史とこれまでの感謝の言葉が朗読され、参加者一同による祈りが行われた。

約25分の式であったが、参列した職員は東横病院の勤務の長短にかかわらず、一人一人が最後の役割を認識しつつ、これまでの思いを噛みしめながら過ごした。心の整理をする大変に貴重な時間であった。



閉院式の来賓の方々



■主な歴史■

1941 年	東横医院開院
1947 年	聖マリアンナ会東横病院
1971 年	東洋医科大学が開学し、附属病院となる
2008 年	高度で専門的な医療を提供できる急性期病院にリニューアル
2024 年 3 月	約 83 年間の医療機関の役割を終える



明石勝也 理事長



北川博昭 学長

■歴代病院長■

初代	明石嘉聞	1947 年 10 月～1960 年 11 月
2 代	前田徳尚	1960 年 12 月～1973 年 9 月
3 代	明石 了	1973 年 10 月～1980 年 7 月
4 代	渡邊 弘	1980 年 8 月～1984 年 3 月
5 代	水原春郎	1984 年 4 月～1986 年 5 月
6 代	染谷一彦	1986 年 6 月～1990 年 3 月
7 代	浜田 宏	1990 年 4 月～1993 年 3 月
8 代	東 威	1993 年 4 月～1996 年 3 月
9 代	林 龍男	1996 年 4 月～2004 年 3 月
10 代	齋藤宣彦	2004 年 4 月～2005 年 12 月
11 代	舟木成樹	2006 年 1 月～2014 年 3 月
12 代	宮島伸宜	2014 年 4 月～2021 年 3 月
13 代	古畑智久	2021 年 4 月～2024 年 3 月

東横病院閉院式 あいさつ

聖マリアンナ医科大学東横病院 第13代病院長 古畑 智久



本日は、日常職務終了後のお疲れの時間帯に、聖マリアンナ医科大学東横病院の閉院式にお集まりいただきありがとうございます。

本式典には、日頃から東横病院を大所高所からご指導くださっております理事長をはじめとする法人役員の方々、そして2008年にリニューアルオープンした東横病院の基盤づくりにご尽力いただいた歴代病院長、看護部長にも参列いただいております。

本日は、我々東横病院教職員とともに、閉院を見とどけていただきたく存じます。よろしく願いいたします。

東横病院は、本学創設者の明石嘉聞博士により、1941年10月に東横医院として開設され、1947年10月には聖マリアンナ会東横病院として開院、1971年4月の本学開学時に附属病院となり、2008年6月からは高度で専門的な医療を提供する東横病院としてリニューアルし、今日に至っております。

2023年春に診療科再編が発表され、リハビリテーション科新設に向け、講演会の開催、専門施設の見学、看護研修計画の立案などを

進めてまいりましたが、秋には閉院が発表され、衝撃が走りました。

教職員の皆様に大きな動揺を与えてしまったことを深くお詫び申し上げます。

東横病院の将来計画は二転三転したことは事実ではありますが、そんな中であっても、「全ての教職員に、法人内で継続してご勤務いただきたい」との理事長の思いは、ただの一度もぶれることがなかったことをここにご報告申し上げます。

閉院となることは、さびしいの一言に尽きますが、閉院は手段であって、目的ではなく、東横病院教職員を法人内に再配置することによって、法人の発展を促すことが真の目的であることとご理解いただきたく存じます。

閉院が近づくに従い患者数が減り、それぞれが今後の人生に不安を抱く中、医療の質を低下させることなく医療を提供して下さっている方々、備品を次に使っていただく人のためにピカピカに磨いてくださっている方々、東横病院の名を刻むために論文執筆や学会発表を最後まで継続している方々、閉院

後も東横病院に残り、本当の意味での閉院まで業務を継続していただく方々など、全教職員に心から感謝申し上げます。

また、法人役員の方々には、閉院へ向けての行政機関などとの調整、教職員の人事異動の調整、教職員異動後の受け入れ先での調整、閉院のために要する経費の調整、備品移動の調整など多くのご指導、ご協力をいただき、大きな問題なく本日を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

2024年3月31日をもって東横病院は閉院し、聖マリアンナ医科大学発祥の地は形のあるものから、心の中に宿るものへと変わります。

時折聞こえてくる耳障りな東急の電車の騒音を聞くのもほんのわずかな期間だなど思いつつ、今後の聖マリアンナ医科大学の大いなる発展と東横病院の記憶が末永く続きますことを皆で祈念していただければと思います。

北川学長が「Coe Medal」を受賞

2024 年 4 月 28 日～5 月 2 日に香港で開催された第 57 回太平洋小児外科学会（PAPS：The Pacific Association of Pediatric Surgeons）において、本学の北川博昭学長が、小児外科学の分野で傑出した業績を残した小児外科医・研究者に贈られる最高峰の賞「Coe Medal」を受賞しました。

「Coe Medal」は、アメリカ、シアトルを本拠地として米国及び環太平洋に小児外科を広めた Herbert E. Coe 医師（米国）の功績を記念して創設された賞であり、毎年、数名の小児外科医がノミネートされ、その中で最も顕著な業績を残した医師 1 名に授与される最高の荣誉です。

1984 年に「Coe Medal」が創設されて以降、本賞を受賞した日本人小児外科医は、葛西森夫先生（東北大学 1987 年）、駿河敬次郎先生（順天堂大学 1988 年）、植田隆先生（大阪大学 1994 年）、木村健先生（アイオワ大学 2003 年）、池田恵一先生（九州大学 2008 年）、宮野武先生（順天堂大学 2010 年）、岩井直躬先生（京都府立医大 2016 年）、水田祥代先生（九州大学 2018 年）の 8 名のみで、北川学長は日本人として 6 年ぶり 9 人目の受賞となりました。

北川学長は、本学を卒業後、長年に亘って小児外科学の臨床と研究、教育に取り組み、アメリカやニュージーランドでの研究を進め、後進の教育を続けております。その顕著な業績と小児外科学の発展に寄与した功績が大きく評価され、今回の受賞に至りました。



PAPS 関係者とともに



受賞後のスピーチ



PAPS 会長より Medal を授与される北川学長

◆ 連載 ◆

卒業生を訪ねて 3

本学を卒業され、現在は学外で活躍されている方を特集する「卒業生を訪ねて」。
3 回目にご登場いただくのは、関原正夫氏（医学部卒業）です。

医学部 OB

今回ご紹介するのは、**医学部 10 回生の関原正夫氏**。現在、利根中央病院（群馬県沼田市）の病院長としてご活躍されている同氏に、学生時代のことや現在の活動などについてお聞きました。



— 医師を志された経緯についてお聞かせください。

関原先生：父親が医師で開業していたため、自然と“自分が継ぐ”という意識が芽生え、医師を志すようになりました。

— マリアンナを選ばれた理由についてお聞かせください。

関原先生：私が高校 3 年生のときに父親が入院し、家計にも影響が及ぶかもしれないという状況になりました。当時の私立医学部には合格を発表する前に寄付金の額を聞くという風潮があり、複数の大学から問合せがありました。ただ、マリアンナだけは聞いて来なかった。そんな“がめつくない”ところが好印象で、最終的にマリアンナを選びました。

— 当時の校風はいかがでしたか？

関原先生：とても自由な雰囲気、穏やかな学生が多かった印象です。医学部ということもあり、授業は厳しかったですが、仲間に恵まれ、充実した学生生活を送ることができました。

— 同級生との繋がりはいかがでしたか？

関原先生：私は 10 回生ですが 1 クラスだけでしたので、みんな仲が良かったです。現在マリアンナで大学病院長を務めている大坪先生は同期で、私がバスケット部、大坪先生がアメフト部と、互いにスポーツをしていたこともあり非常に気が合い、今でも連絡を取り合う仲です。“懐が広い”というのが彼に対する評価で、学生

時代から自然と仲間の集まる魅力溢れる人物でした。同期なので恥ずかしいですが、ある種憧れの存在でした。いずれ組織を率いる人物だとは思っていましたが、本当にそうになりました。

— 思い出に残っている先生についてお聞かせください。

関原先生：戸栗（栄三）学長（当時）には、いろいろとお世話になりました。卒業後にマリアンナを出ることが決まっていた私と大坪先生の 2 人は、卒業直前に先生のお部屋へ挨拶に伺いました。その際、“外の組織は厳しいだろうが、頑張りなさい”と温かい言葉を掛けていただき、先生のお部屋にあった専門書を署名入りでプレゼントしていただきました。その書は、私の心の支えとして今でも大切に保管しています。また、バスケット部の顧問を務めていた皮膚科の関（建次郎）教授も思い出深い先生の一人です。普段は穏やかに話をされる先生なのですが、お酒が入るとべらんめえ口調に変わるのが特徴で、そのギャップに最初は驚きましたが、とても優しく親しみある先生でした。

— 外科医として順調にキャリアを重ねられる一方で、災害医療のエキスパートとしてもご活躍されていますが、そのきっかけについてお聞かせください。

関原先生：きっかけは 1995 年の阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）です。当時は DMAT も EMIS も無い時代（いずれも当震災を契機に構築された）で、当然、行政からの支援要請もありませんでした。ただ、現地の医療が逼迫している状況を確認できたので、当時の所属先病院長からの後押しもあり、発災から 3 日目に同僚看護師 3 名と現地へ向かいました。新幹線で京都まで行き、そこからは陸路で現地に入りました。現地は惨い状況で、火災による焦げ臭さが辺

り一面に漂っていたことを今でも鮮明に記憶しています。私自身は倒壊を免れた三宮の診療所で医療活動を行ったのですが、火傷された方や筆筒などの下敷きになって怪我をされた方が大半でした。処置をするにも医療資器材や薬剤が極度に不足していたので非常に難儀しました。災害医療の厳しさを体験し、このような状況下で一人でも多くの命を救うためにはどうすべきか、災害医療について考えるきっかけとなりました。

— 阪神淡路大震災以降の活動についてもお聞かせください。

関原先生：阪神淡路のような地震など二度と来ないだろうと思っていましたが、その後も 2007 年の新潟県中越沖地震や 2011 年の東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）と続き、それぞれ現地へ赴きました。様々な経験の中で、災害医療の大切さはもちろんですが、“備えること”の重要性を再認識しました。現在、私は病院長を務めていますが、お預かりしている患者さんの命を最大限お守りできるよう、災害対策にも力を入れています。私の病院は、すぐ目の前を利根川水系の片品川が流れており、さらに上流には菌原ダムが構える地形となっているため、洪水による浸水だけでなく、ダムの緊急放流に伴う河岸浸食にも備えなければなりません。河岸浸食から逃れるには垂直避難ではダメで、水平避難が求められます。ダムの緊急放流は実施 4 時間前に決定されますので、その 4 時間の間に入院患者全員を地形的に安全な場所へ避難させる必要があります。本院の病床は 253 床。その全員の避難となると想像以上に大変です。まず、搬送先のマッチングを行わなければなりません。また、搬送には車両や付き添う職員が必要となります。患者さんの状態によっては付き添う人数を増やさなければなりませんし、車いすやストレッチャーに対応できる車両も必要となります。さらに、搬送が始まれば、その状況の全てを一元管理しなければなりません。災害対策本部にはかなりの負担が掛かります。現在、年 2 回の訓練を行っていますが、訓練開始当初は 4 時間という限られた時間内で患者全員を搬送するシミュレーションは成立しませんでした。初動である搬送先のマッチング作業ですらかなりの時間を要し、とても全員を避難させる余裕はありませんでした。ただ、訓練を重ねる中でスタッフの経験値や組

織としてのノウハウが積み上がり、次第にスムーズな対応ができるようになりました。今では全ての患者さんを避難させることに、ある程度の自信を持っています。

— 高齢者も多いと伺っていますが、搬送には相当の負担が掛かるのではないのでしょうか？

関原先生：その通りです。車いすやストレッチャーでの搬送を要する患者さんが多くいるので、搬送車両の確保は大きな課題です。とにかく車両台数が足りない。どう考えても我々が所有する車両だけでは搬送しきれない。そこで考えたのが、他の医療機関や福祉施設が所有する車両をお借りすることです。まず、本院がある二次医療圏内の医療機関や福祉施設が所有する車いすやストレッチャーに対応できる車両の台数を調べました。その上で、災害時にそれらをお借りできるよう交渉しました。幸い、協力いただける施設が多く、何とか搬送車両の目途が立ちました。

— かなり綿密な災害対策ですね。

関原先生：患者さんの命だけではありません。少し変わった取り組みとしては“職員の自家用車の避難”というものもあります。“患者さんの命は守れたけど、自分の車が流されてしまった”では職員のモチベーションは下がってしまいます。大切な職員の財産ですから“しっかり守ろう”ということで、職員の自家用車を安全な場所に移動させる担当部署も決めました。考えればきりがありませんが、患者さんや職員の安全・安心を守るためにできる限りの対策をしたいと考えています。

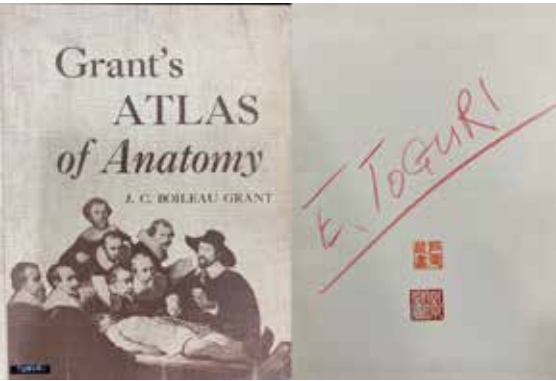
— 最後に本学の学生や教職員へ一言お願いします。

関原先生：私は卒後ずっと学外の医療機関に務め、様々な医師と出会ってきましたが、マリアンナの卒業生が技術面で他の先生方に見劣りするという印象はありません。むしろ高いレベルにあると感じています。明らかに違うと感じるのは、患者さんに寄り添う気持ちです。これは圧倒的にマリアンナの卒業生に強いものを感じます。教育を通じて建学の理念がしっかりと学生たちに伝わっている証なので、是非、今後もそのような良き伝統を継承して欲しいです。私たち卒業生もマリアンナの発展を期待して見守っています。

（総務部）



バスケット部時代
シュートを決める関原氏



戸栗学長（当時）からの贈呈書

令和 6 年度 第 54 回 医学部医学科 入学式

医師としての崇高な使命感を持って



4 月 6 日 (土)、医学部本館 6 階大講堂において、令和 6 年度第 54 回医学部入学式が執り行われた。新型コロナから解放され、学内にかつての活気が取り戻されつつある中、参列した多くの保護者とともに、夢と希望に満ちた 117 名の入学を祝福した。北川博昭学長は式辞の中で、「本学は 1971 年に敬虔なカトリック信者である故明石嘉聞博士によって創立されました。本学では『建学の精神』として、『キリスト教的人類愛に根ざ

した「生命の尊厳」を基調とする医師としての使命感を自覚し、人類社会に奉仕し得る人間を育成すること』を謳っていますが、令和 2 年 2 月に横浜港へ入港した客船内の新型コロナ重症患者を率先して受け入れたことなどはその精神の表れで、今も尚、『建学の精神』が脈脈と受け継がれていることを象徴する出来事でした。皆さんはこれからの 6 年間を医学部で過ごしますが、単に知識や技術を学ぶだけではなく、医師としての崇高な使命感も身につけてください」と述べた。祝辞では、明石勝也理事長から、「本学は創立 50 周年記念事業の一貫として大学病院の建替工事を進めています。諸君の臨床実習や初期臨床研修が行われる頃には、最新の IT 環境や最先端医療機器の完備されたトップ

レベルの環境が整備されていますので、楽しみにしていってください」との将来に向けた話に加え、1971 年の創立時、当時のローマ法王パウロ 6 世から特別な関心と期待が寄せられて記念のカリスとパテナを拝受した歴史が披露された。さらに、ルカの福音書にある有名な『善きサマリア人』の一節を挙げ、「隣人を自分のように愛することこそが医療の本質であり、本学『建学の精神』の原点です。医師としての知識や技術を学ぶことはもちろん、ぜひこの精神を継承してください」と述べた。岸忠宏聖医会会長からも、「これからの 6 年間は膨大な医学知識を習得する期間となりますが、クラブ活動などを通じて様々な人間関係を経験し、人間力も高めてください」と激励した。次に松永智康さんが入学した喜びを述べるとともに、学則を守り学業に精励することを宣誓した。続いて在校生を代表して第 5 学年の今井大



明石勝也 理事長

貴さんが歓迎の辞を贈った。そして、小田武彦司祭（宗教学特任教授）の祈願、校歌演奏が行われ閉式となり、117 名の新入生は実りある 6 年間に向けての第一歩を踏み出した。

□■入学生喜びの声■□

人を診る力の優れた医師になるために



まつなが ともやす
医学部 松永 智康

まずは、入学式を執り行っていたいた、大学関係者の皆様、これまで支えてくださった保護者の皆様にお礼申し上げます。様々な軌跡を持つ生徒が一堂に同じ学年に介し、存分に医学を学ぶことができる環境を用意してくださったことに感謝申し上げます。私たちは聖マリアンナ医科大学の 1 年生となったことを自覚し、医師として必要な知識や技量はもちろんのこと、キリスト教的人類愛のもとで患者さんを診るための道徳心や豊かな教養を持ち合わせた医師になれるよう日々努力し、鍛錬を積み重ねてまいりたいと思います。

令和 6 年度 第 48 回 看護専門学校 入学式

仲間を信じ、
支え合いながら歩む 3 年間を



式辞を述べる
鈴木昌子 校長

4 月 9 日 (火)、医学部本館 6 階大講堂にて、令和 6 年度看護専門学校入学式が執り行われた。校歌演奏に続いて、新入生 68 名一人ひとりの名前が呼ばれ、鈴木昌子校長が入学を許可した。式辞では、鈴木校長が、「昨年 5 月に感染症法が改正され、少しずつコロナ禍以前の日常が戻りつつありますが、コロナ禍での経験は、私たちの日常を脅かす非常に厳しい時間でした。メディアでは連日のように患者やご家族、それに対応する医療従事者の苦悩が報道されました。そのような過酷な医療現場を目の当たりにしてもなお、「誰かのために尽くし

たい」という崇高な思いを抱いた皆さんは、看護師の道を選択されました。これからの 3 年間、3,000 時間にも及ぶ看護師としての道のりは、楽しいことや嬉しいことばかりではないでしょう。辛いことや悲しいことも沢山あると思います。しかし、皆さんの先輩たちがそうであったように、仲間を信じ、支え合いながら歩みを進めれば、必ずや良き未来は訪れます。私たち教職員も皆さんの夢が実現できるよう全力で指導しますので、ぜひ、充実した 3 年間を過ごしてください」と述べた。また、北川博昭学長は祝辞において、本学建学に際し当時のローマ法王パウロ 6 世からカリスとパテナを拝受した歴史を紹介するとともに、建学の理念にも触れ、その理念が今もなお継承されているとして、「2020 年 2 月に横浜港に寄港したダイヤモ

ンドプリンセス号の船内では沢山の乗客や従業員が重症コロナ患者となりました。他の医療機関が受入れを躊躇う中、本学では逸早く受入れを決定し、それら重症患者を積極的に受け入れました。感染リスクの高い診療現場には大きなストレスが掛かりましたが、そのような困難な局面にあっても皆さんの先輩看護師たちは常に笑顔で患者さんたちを手厚く看護し続けました。これから皆さんは、伝統ある本学で看護を学ばれますが、幅広い知識や技術はもちろんのこと、先輩たちが大切に受け継いできた、愛ある医療の根幹である建学の理念についてもしっかりと学び、医療界で活躍できる人材となれるよう研鑽を積んでください」と激励した。次に、新入生を代表して大島あさひさんが「将来、医療現場で活躍できる看護師となれるよう、弛まぬ努力を続けることを誓います」と述べた。そして、小田武彦司祭による新入生への祝福の祈りをもって、式は滞りなく幕を閉じた。

□■入学生喜びの声■□

“社会に貢献できる看護師”
を目指して



看護専門学校 おおしま あさひ

日ごとに暖かさが増し、春の訪れを感じる今日の良き日に、このような素晴らしい入学式を開催していただき、誠にありがとうございます。歴史と伝統のある聖マリアンナ医科大学看護専門学校において、“社会に貢献できる看護師”を目指し、同じ夢を持つ仲間たちと共に専門知識を学ぶことを嬉しく思います。知識はもちろん、患者さん一人ひとりと親身に接する姿勢も看護師には大切なことです。理想の看護師になるためにはどのような力が必要か、それを常に考えながら学び、3 年間という貴重な時間を有意義に過ごしたいと思います。そして、将来、医療現場で活躍できる看護師となれるよう、弛まぬ努力を続けることを誓います。

◆◆令和6年度 入試結果報告◆◆

医学部

一般選抜前期・後期を併せ、過去最高の志願者数

令和 6 年度医学部入学者選抜を以下のとおり実施しました。
・学校推薦型選抜
試験日 令和 5 年 11 月 25 日 (土)
一般公募制 募集人員 約 25 名
志願者数 66 名 (+ 42)
神奈川県地域枠 募集人員 7 名
志願者数 12 名 (+ 6)
・一般選抜 (前期)
試験日 1 次 令和 6 年 2 月 8 日 (木)
2 次 令和 6 年 2 月 18 日 (日)
募集人員 約 75 名
志願者数 3,210 名 (+ 856)
・一般選抜 (後期)
試験日 1 次 令和 6 年 3 月 5 日 (火)
2 次 令和 6 年 3 月 15 日 (金)
募集人員 約 10 名
志願者数 1,517 名 (+ 333)
※ () 対前年増減
令和 6 年度 学校推薦型選抜では、神奈川県地域枠の募集人員を従来の

5 名から 7 名に増員し実施しました。また、一般選抜では従来利用してきた五反田 TOC ビルの改装工事に伴い、会場をパシフィコ横浜ノースに変更し実施しました。入学者選抜に係る広報活動としては、「オープンキャンパス」「聖医祭」の合同開催に加えて、「LINE 公式アカウント」を開設し、受験生に入試情報を積極的に発信しました。結果、令和 6 年度一般選抜 [前期]・[後期] を併せ 4,727 名、過去最高の志願者数となりました。今後も優秀な学生確保のため、「オープンキャンパス」「進学相談会」を更に充実させ、本学の魅力を積極的にアピールしていきます。
教学部入試課 主査 青木恵美子

看護専門学校

社会人学士 12 名、推薦 22 名、
一般 28 名の合計 68 名が入学へ

令和 6 年度看護専門学校入学試験の結果は以下の通りです。
・令和 5 年 9 月 30 日 (土)
社会人・学士入学試験 入学者 12 名
・令和 5 年 10 月 28 日 (土)
推薦入学試験 入学者 22 名
・令和 6 年 1 月 8 日 (月)
一般入学試験Ⅰ期 入学者 19 名
・令和 6 年 3 月 16 日 (土)
一般入学試験Ⅱ期 入学者 9 名
社会人学士入試については、名称を変更し、本校が教育訓練給付金制度の対象となったことで志願者が微増しました。推薦入試は昨年度の入学者 47 名、一般入試Ⅰ期は昨年度 65 名、一般入試Ⅱ期は昨年度 8 名でしたが、一般入試Ⅱ期以外の入学者数は減少しました。その結果、入学者合計は昨年度より 20 名減少し 68 名となりました。特に一般

入試Ⅰ期では合格者 41 名に対して入学者 19 名と辞退者が多く、定員 80 名に対して入学者 68 名で 12 名の定員割れとなりました。令和 6 年度は、他校の入試状況をリサーチし、入試日程と科目の見直しを実施します。また、オープンキャンパスの回数と内容の強化、ホームページの改善、YouTube 動画配信で本校の認知度を上げ、受験者数の増加を目指します。さらには新規に公式 LINE アカウントを取得し、受験希望者との繋がりを保ち、本校の魅力を丁寧に訴求します。
これらの施策は、基礎能力を備えた入学生を確保し、高い能力を有する卒業生を輩出するためのもので、そのことを念頭に置き引き続き取り組んでいきたいと考えます。 事務長 金本兼治

就任のあいさつ

主任教授就任に当たって

解剖学（人体構造） 主任教授

水嶋 崇一郎



令和 6 年 4 月 1 日付けで解剖学（人体構造）の主任教授を拝命いたしました。森本岩太郎先生、平田和明先生に続き、私で第 3 代目となります。このたび本教室の舵取りを信任いただいたことに対して、大変光栄に感じるとともに、身の引き締まる思いです。

当教室の最重要任務の一つとして、人体の正常構造に関する知見を医学生に授けることがあげられます。広範で膨大な知識を初学者に定着させることは何年経っても難しいものですが、諸先生が築かれてきた伝統を受け継ぎ、教室員一丸となって次世代の教育を創り出せるよう専心いたします。もう一つの重要な任務として、篤志献体団体「山百合会」の運営業務があります。本学の肉眼解剖学教育は、開学以来、山百合会々員の方々がお体を提供くださることによって盤石なものとなっています。われわれは本会を堅調かつ発展的に運営していくとともに、医学生が故人に対する敬意を培い、生命の尊厳を心から実感できるような倫理教育に努めてまいります。

私は理学部の出身で、キャリアを通じて医療に直結しない研究（解剖学の一分野の自然人類学）に従事してきました。その点で、教職員の皆

様にご心配をお掛けすることがないように、慎重で丁寧な教室運営を心掛けてまいります。今まさに教員、技能員、秘書と力を合わせて、公明正大な教室運営となるよう始動したところです。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

研究・教育歴

平成 9 年 3 月	東北大学 理学部 地圏環境科学科 卒業
平成 9 年 4 月	東京大学大学院 理学系研究科 生物科学専攻修士課程
平成 13 年 4 月	東京大学 総合研究博物館 協力研究員
平成 14 年 4 月	東京大学 総合研究博物館 技術推進員
平成 16 年 4 月	東京大学大学院 理学系研究科 生物科学専攻博士課程
平成 21 年 3 月	博士（理学）取得（東京大学）
平成 21 年 4 月	東京大学 総合研究博物館 特任研究員
平成 22 年 4 月	聖マリアンナ医科大学 解剖学（人体構造）助教
平成 30 年 1 月	聖マリアンナ医科大学 解剖学（人体構造）講師
令和 5 年 8 月	聖マリアンナ医科大学 解剖学（人体構造）准教授
令和 6 年 4 月	聖マリアンナ医科大学 解剖学（人体構造）主任教授

持続可能な小児ハートチームの構築を目指して

心臓血管外科学（小児心臓血管外科）主任教授

島田 勝利



令和 6 年 4 月 1 日付けで小児心臓血管外科の主任教授を拝命いたしました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。この新しく開設された小児心臓血管外科では小児のみならず成人も含めた先天性心疾患全般の外科治療を担います。小児循環器領域は今まさに大きな転換期を迎えているところで、関連学会が合同で施設集約化を進めています。現実的には手術症例数を増やすことが喫緊の課題であり、こども病院には出来ないこと、循環器専門施設には出来ないこと、これらに積極的に取り組んでいかなければ生き残れないと考えています。

先天性心疾患の外科治療には 3 つの領域、すなわち①新生児・乳幼児期を含む未成年の外科治療、②成人先天性心疾患（多くは①の再手術）、③重症心不全治療（VAD・心移植）がありますが、これらの治療は小児科や循環器内科の医師をはじめ、そこに関わる全てのスタッフが有機的に結びついた集学的治療が不可欠です。

幸いにも当院にはこの集学的治療を可能とする多くの優秀なスタッフがおられます。私がこれまで在籍した high volume center での経験を存分に生かし、小児ハートチームの構築を実現したいと考えています。

施設集約化の流れは文字通り逆風ですが、これを聖マリアンナ医科大学の存在感を示すチャンスと捉え尽力させていただく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

略 歴

平成 14 年	高知医科大学（現 高知大学）卒業
平成 14 年	株式会社 MEDIC MEDIA（代表著書：「病気が見える・循環器」執筆・編集）
平成 16 年	東京医科大学（初期研修プログラム）
平成 18 年	三井記念病院 外科（後期研修）
平成 21 年	国立循環器病研究センター 心臓血管外科 レジデント
平成 24 年	長野県立こども病院 心臓血管外科 医長
平成 26 年	東京女子医科大学 心臓血管外科 助教
平成 27 年	国立循環器病研究センター 小児心臓外科 スタッフ
令和 2 年	京都府立医科大学 小児心臓血管外科 後期専修医
令和 3 年	東京女子医科大学 心臓血管外科 講師（令和 4 年 6 月～）
令和 4 年	榊原記念病院 小児心臓外科 副部長（令和 5 年 4 月～）

就任のご挨拶

心臓血管外科学（心臓血管外科）主任教授

縄田 寛



令和 6 年 4 月 1 日付けで心臓血管外科学心臓血管外科 主任教授を拝命いたしました。多くの方々に支えられての就任です。紙面をお借りして、心からの感謝とともにご挨拶申し上げます。

聖マリアンナ医科大学心臓血管外科は昭和 48 年 4 月開設の旧第三外科内 心臓グループをもって嚆矢とし、平成 11 年 4 月に独立する形で発足しました。第三外科時代を含め野口輝彦先生、山手昇先生、幕内晴朗先生、宮入剛先生の歴代教授に続き、私、縄田は 5 代目の責任者となります。

心臓血管外科の対象疾患は後天性心疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈疾患等に細分化されますが、同時に新しく小児心臓血管外科の主任教授に就任された島田勝利先生とタッグを組み、全領域において高水準の治療を提供して参ります。

心臓血管外科はかねてより「手術が長くストレスフル」「勤務時間が長い」といったイメージとともに令和 6 年 4 月施行の医師の時間外労働の上限規制（所謂「働き方改革」）に抵触しそうな診療科の一つであったのは確かですが、当院においては、他科との連携や NP（診療看護師）の活躍のお蔭で、積極的なタスクシフトにより心臓血管外科医師の労働環境が大幅に改善しています。

働きやすい環境を整備しつつ患者さんの生命予後・機能予後に資する

高レベルの診療を提供するチームを持続可能な形で構築するべく教室運営に努めますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

略 歴

平成 10 年 3 月	東京大学医学部医学科卒業
平成 10 年 6 月	東京大学医学部附属病院 外科系研修医
平成 11 年 12 月	青梅市立総合病院 外科
平成 13 年 12 月	東京大学医学部 心臓外科・呼吸器外科医員
平成 14 年 5 月	神奈川県立こども医療センター 心臓血管外科
平成 15 年 7 月	東京大学医学部附属病院 心臓外科
平成 19 年 3 月	博士（医学）取得（東京大学）
平成 23 年 2 月	オーストラリア ロイヤル アデレード病院 心臓胸部外科 臨床留学
平成 25 年 7 月	東京大学医学部附属病院 心臓外科 助教
平成 26 年 5 月	東京大学医学部附属病院 心臓外科 講師
平成 29 年 4 月	東京大学大学院医学系研究科 医療品質評価学講座 特任准教授
平成 31 年 4 月	聖マリアンナ医科大学 心臓血管外科 准教授
令和 3 年 4 月	聖マリアンナ医科大学病院 移植医療支援室 室長（兼任）
令和 5 年 4 月	聖マリアンナ医科大学病院 心臓血管外科 診療部長
令和 6 年 4 月	聖マリアンナ医科大学 心臓血管外科 主任教授

2023 年度 医学会 海外留学奨学金の授与

聖マリアンナ医科大学医学会では、医学研究のため海外へ留学する会員を対象に、奨学金給付事業を実施しております。年度の給付総額 120 万円、個人への給付上限額 30 万円となっております。

2023 年度は、海外留学奨学生選考委員会による厳正な選考の結果、以下の会員を海外留学奨学生として採択いたしました。そして、本年 3 月 26 日に北川博昭医学会長による海外

留学奨学金授与式を執り行いました。海外留学奨学生には、帰国後に本会雑誌への投稿、または学術集会での発表を通じて、留学成果を発表していただく予定です。

なお、海外留学奨学生の募集は、原則として例年 11 月頃に行っております。2024 年度も会員の皆様より有効に活用をいただければ幸いです。

医学情報センター 図書情報課 佐々木 理人

2023 年度医学会海外留学奨学生

講座名	氏名	留学先（国名）	留学期間
耳鼻咽喉科学	稲垣 太郎	David Geffen School of Medicine at UCLA（USA）	2022 年 9 月～2024 年 9 月
耳鼻咽喉科学	笹野 恭之	The University of Miami Miller School of Medicine（USA）	2024 年 4 月～2026 年 3 月
小児外科学	大山 慧	Cincinnati Children's Hospital Medical Center（USA）	2023 年 10 月～2025 年 9 月
救急医学	沼田 賢治	Harvard University（USA）	2024 年 6 月～2025 年 5 月



かわさき SDG s
ゴールドパートナー

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

能登半島地震 DMAT（災害派遣医療チーム）派遣

大学病院

救急医学 教授 森澤健一郎

能登半島地震に対する神奈川県 DMAT は、1 月 13 日～17 日の 5 次隊と、1 月 18 日～2 月 4 日の 6 次隊として派遣され、当院からは 1 月 18 日～21 日に 5 人の隊員が能登医療圏活動拠点本部に入り活動した。派遣先の病院内で寝泊まりし、飲料水も無いと聞かされていたが、発災から 2 週間が経過しており、水道は機能していないものの、少しずつではあるが復興の進んでいる状況であった。

したがって、われわれの活動は「がれきの下の医療」ではなく、ドクターカーによる要介護者の遠距離搬送と、避難所のスクリーニングが主体であった。これは DMAT の仕事であっ



たのか？もちろん DMAT の仕事である。「自分の仕事でないと言うなかれ」、派手な装備で「被災地を救いに行く」などと宣うのは DMAT ではない。

現地の保健・医療・福祉に寄り添い、自らは表に立たず復興までの橋渡しに徹してこそ DMAT である。菅生キャンパスに残り、われわれを 24 時間体制で遠隔バックアップしてくれたスタッフ達からも同じ魂を感じることができた。能登の人も菅生の人も、途中で立ち寄ったパーキングでビニール袋をサービスしてくれた人も、みなさん、本当に有難うございました。



西部病院

総務課 施設係 田中 勇太

当院の DMAT は、2 月 1 日から 4 日まで能登半島地震の被災地に派遣され、能登中部医療圏の活動拠点本部にて活動を行いました。

今回の派遣では、現地での医療支援を通じて、断水や物資不足などの困難な状況に直面しましたが、それだけでなく、予期しないトラブルも多く発生し、現場の混乱を目の当たりにしました。特に、断水の影響で衛生環境が悪化し、感染症のリスクが高まる中、医療物資の不足も深刻で、現地の医療提供が非常に困難な状況でした。

これに加えて、道路の寸断や通信障害が発生し、情報の伝達や患者の

搬送に多大な支障をきたしました。こうした状況の中で、当院の DMAT は限られたリソースを最大限に活用し、被災者の支援活動に全力を尽くしました。

今回の経験を通じて、災害時における迅速かつ柔軟な対応の重要性を改めて認識しました。同時に、被災地での活動を振り返る中で、私たちが被災した際の対応についても再考する必要があると強く感じました。防災計画の見直しを図り、さらなる備えを充実させることが急務であると考えています。



多摩病院

総務課 塚本 嵩仁

神奈川県による DMAT 派遣計画に基づき、多摩病院 DMAT は多摩区として初の被災地支援として、第 6 次隊グループ④により能登中部保健医療福祉調整本部で、1 月 27 日から 30 日の 4 日間の活動を行いました。

発災当初は、被災県に近い地域の DMAT が被災地へ向かっておりましたが、対応の長期化に伴い、順次全国に対し派遣要請が発出されました。多摩病院 DMAT の活動内容としては、能登中部保健医療福祉調整本部内の搬送班に配属され、27 日から 29 日まで福祉医療施設のスクリーニング及び診察など、30 日は JRAT（日



本災害リハビリテーションチーム）と共に避難所のスクリーニングと診察等を実施しました。

七尾市内から志賀町の各施設を訪問しましたが、地震の影響で道路が荒れ、応急的にアスファルトで埋められた場所が幾つもあり、運転にはすごく気を使いました。また、マップ上では通れるはずの道でも、家屋が倒壊し、通れない道が数か所ありました。

被災者の方たちは暗い顔は見せず、助け合いながら避難生活を送っていて、都会では希薄になりがちな住民同士のふれあいによる温もりを感じることができました。長期化する避難生活で、被災者だけでなく支援者も、心身共に疲労がたまってきております。一刻も早く復興し、通常生活に戻れることを祈りつつ、我々は何ができるかを考えさせられる活動でありました。



能登半島地震 災害支援ナース派遣

大学病院 8 西 松石 雄飛

令和 6 年元日に能登半島地震があり、1 月 9 日に派遣調整のメールが届き翌日には派遣が決定し 1 月 12 日から 3 泊 4 日の派遣となりました。災害支援ナースの活動は自己完結型で食料、水、寝袋などすべて持参となるので、準備に時間がかかりました。最終的な派遣先は輪島市の鳳至小学校の避難所でした。第 1 班として派遣され一から全容把握に努めました。避難者は約 140 人、マップはなく、居住スペースは不明瞭、カルテも無く、名前もわからない状況のなか健康状態の把握に努めつつ、マップ、カルテを作成しました。来訪する医療班と情報共有をし、優先順位を決め診察に同行しました。医療

ニーズ、清潔ケアのニーズを把握しました。発災から一度もお風呂に入れていない人のため、自衛隊の風呂からお湯を借り、ペットボトルと吸水シートで洗髪をしました。ケアの最中には気持ちよさそうに眠ってしまう方もいました。

看護師集団だからこそできた生活を支えるケア。災害医療チームの役割では洗髪など清潔ケアは行えなかったと思います。派遣にあたり、職場の上司、同僚、家族、友人、看護協会の方々、被災者の方々など多くの人の支えがあったことを再認識し、深く感謝申し上げます。



聖マリアンナ医科大学



Green For All
KAWASAKI
2024

学校法人 聖マリアンナ医科大学は、川崎市市制100周年記念事業と全国都市緑化かわさきフェアを応援しています。

令和 5 (2023) 年度 文部科学省・(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 交付決定者一覧

令和 6 年 3 月 31 日現在

研究項目	所属	職位	氏名	交付額 (円) ：直接経費	研究課題名	研究項目	所属	職位	氏名	交付額 (円) ：直接経費	研究課題名				
基礎研究 (C)	難病治療研究センター	助 教	新谷奈津美	1,000,000	HAM における免疫系と神経系の細胞間ダイナミクスによる神経障害機構の解明 滑膜線維芽細胞において炎症性サイトカインで誘導される CDK6 の作用点の解明	若手研究	腎泌尿器外科学	助 教	熊井 隆智	900,000	酸修復・エネルギー代謝の解析と、治療応用動力源として人工筋肉を装備する生体適合性人工骨・軟骨一体型バイオマテリアルの創製 外反母趾の病態と新たな治療法確立のための第 1TMT 関節の解剖学的研究 Nitazoxanide を中心とした多剤併用による膀胱癌の新たな治療戦略の確立 miRNA-146a-5p を用いた膀胱癌の新規診断・治療法の開発とその機能解析 新規抗がん薬による卵巣毒性の機序解明と卵巣保護に関する研究 妊娠初期における SMI (微細超音波ドブラ) を用いた胎盤疾患診断法の確立 p62 を中心とした視神経軸索障害におけるオートファジーと抗酸化経路の相互機構解明 鼻閉が及ぼす持続的運動と間欠的運動への影響と治療適応の解析 メニエール病と腸内細菌叢のディスバイオシスの関連性 小細胞肺癌における代謝の変化と画像診断、放射線治療との関係 動作分析ソフトを用いた臨床現場での気管挿管操作時の動作解析 CD30 による ROS-DSB を介したゲノム不安定性と ATL 病態進展機構の解析 未受精卵子体外培養及び未受精卵子凍結における卵子ミトコンドリア動態を解明する 砂浜での競技環境が足部機能に与える影響 PPAR α アゴニストによる神経保護効果と分子制御機構の解明				
		研究技術員	小松 梨恵	900,000				助 教	軽辺 朋子	300,000					
医科学研究 (B)	大学院アイソトープ研究施設	講 師	廣井 朋子	1,700,000	放射性同位元素標識プラスミドを用いた低線量内部被ばく影響の数値化			講 師	早川 望	1,200,000					
若手研究	微生物学	講 師	大神田 敬	900,000	カルバペネマーゼ産生菌感染症に対する画期的な抗菌薬併用療法の開発			助 教	薄場 渉	1,200,000					
	免疫学・病害動物学	助 教	大橋 彩香	1,700,000	慢性活動性 Epstein-Barr ウイルス病新規治療標的分子の同定と治療薬開発		産婦人科学	助 教	中村健太郎	1,500,000					
	臨床検査医学・遺伝解析学	助 教	久道三佳子	100,000	かかりつけ医から腎臓専門医に紹介すべき尿定性検査解釈の検討ー尿比重の有用性			助 教	古谷 菜摘	500,000					
	総合診療内科学 循環器内科学 消化器内科学	准教授	家 研也	1,900,000	患者積極性向上に着目した新たな処方適正化プロトコルの開発 二次性尖弁閉鎖不全症における負荷心エコー検査の有用性 炎症性腸疾患の新規バイオマーカー・病態関連候補血清ペプチドの網羅的解析 腎移植ドナーを対象とした運動療法の有効性について サイトカインプロファイリングに注目した CAEBV の病態解明と治療法の開発 EBV 感染腫瘍細胞の根絶を目指した慢性活動性 EB ウイルス感染症治療法の開発 自己免疫疾患特異的な末梢性ヘルパ T 細胞と疾患治療効果に伴う遺伝子発現の動的観察 機械学習を用いた新生児自発運動評価法の開発 圧迫性脊髄症治療における膜透過性神経分化誘導ペプチドと脂肪組織由来幹細胞の有用性 骨芽細胞におけるエネルギー代謝調節因子を介する力学的ストレス応答と、骨形成の制御 生理的・病的荷重ストレスに応答する軟骨核		講 師	桑田 真吾	800,000	眼科学	助 教	佐瀬 佳奈	700,000		
		助 教	加藤 正樹	1,400,000			講 師	齋藤 善光	300,000		耳鼻咽喉科学	助 教	笹野 恭之	400,000	
		准教授	今井 直彦	600,000			放射線治療学	准教授	岡田 幸法			300,000	助 教	浜辺 宏介	100,000
	腎臓・高血圧内科学 血液・腫瘍内科学	助 教	上村 悠	1,200,000	自己免疫疾患特異的な末梢性ヘルパ T 細胞と疾患治療効果に伴う遺伝子発現の動的観察 機械学習を用いた新生児自発運動評価法の開発 圧迫性脊髄症治療における膜透過性神経分化誘導ペプチドと脂肪組織由来幹細胞の有用性 骨芽細胞におけるエネルギー代謝調節因子を介する力学的ストレス応答と、骨形成の制御 生理的・病的荷重ストレスに応答する軟骨核		麻酔学	助 教	中島 誠		1,800,000	難病治療研究センター	助 教	鈴木 由妃	1,500,000
		非常勤講師	内田 晶子	1,900,000				助 教	鈴木 由妃		1,500,000		整形外科学	助 教	市川 翔太
	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学	助 教	櫻井 恵一	100,000				助 教	藤田 直輝		1,100,000	助 教		藤田 直輝	1,100,000
	小児科学 脳神経外科学	助 教	今泉 太一	600,000	自己免疫疾患特異的な末梢性ヘルパ T 細胞と疾患治療効果に伴う遺伝子発現の動的観察 機械学習を用いた新生児自発運動評価法の開発 圧迫性脊髄症治療における膜透過性神経分化誘導ペプチドと脂肪組織由来幹細胞の有用性 骨芽細胞におけるエネルギー代謝調節因子を介する力学的ストレス応答と、骨形成の制御 生理的・病的荷重ストレスに応答する軟骨核	若手研究	整形外科学 眼科学	助 教	市川 翔太	1,100,000	整形外科学 眼科学	助 教	藤田 直輝	1,100,000	
		研究員	善積 哲也	2,400,000				助 教	藤田 直輝	1,100,000		助 教	藤田 直輝	1,100,000	
	整形外科学	助 教	染村 嵩	1,400,000				助 教	藤田 直輝	1,100,000		助 教	藤田 直輝	1,100,000	
助 教		寺内 昂	900,000	助 教	藤田 直輝	1,100,000	助 教	藤田 直輝	1,100,000						

令和 5 (2023) 年度 国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究開発費 交付決定者一覧

令和 6 年 3 月 31 日現在

所属	職位	氏名	代表・担	交付額（円） ：直接経費	研究開発課題名	所属	職位	氏名	代表・担	交付額（円） ：直接経費	研究開発課題名	
脳神経内科学	主任教授	山野 嘉久	代表	5,550,000	HAM・HTLV-1 陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出	リウマチ・膠原病・アレルギー内科学	主任教授	川畑 仁人	分担	300,000	リビート構造異常に起因する骨格筋疾患の発症機構 免疫担当細胞 eQTL データを用いた免疫介在性疾患ゲノム情報からの層別化および予後予測モデルの構築	
血液・腫瘍内科学	主任教授	新井 文子	代表	4,000,000	新規核酸医薬を用いた難治性血液疾患の病態解明 診療ガイドライン掲載のためのエビデンス創出を目指した慢性活動性 EB ウイルス感染症とその類縁疾患のレジストリ強化・病態解析・治療法の開発		特任准教授	永渕 裕子	分担	200,000	レジストリを活用したペーシェット病の予後不良病型発症予防のための treat-to-target 開発	
	主任教授	新井 文子	代表	3,250,000			助 教	櫻井 恵一	分担	100,000	早期関節リウマチの滑膜と末梢血情報による予後予測モデルの構築	
リウマチ・膠原病・アレルギー内科学	教 授	森 雅亮	代表	2,800,000	関節リウマチ (RA) 大規模データベースを用いた、移行期・AYA 世代および妊娠期 RA 患者における疾患特性の異同を内包するライフステージの課題抽出とその解決に資する研究	神経精神科学 小児科学	教 授	中川 敦夫	分担	2,500,000	医療情報を統合したうつ病の治療最適化に資するシステムの開発	
神経精神科学	教 授	中川 敦夫	代表	2,000,000	適応障害（適応反応症）に対する新規心理社会的治療法の確立：反芻焦点化認知行動療法の研究プロトコール開発 電波式胸部運動センサの研究開発 シリーズ A2209 AI 技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究 心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立 患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究		教 授	森 鉄也	分担	100,000	小児リンパ腫に対する新規治療法の実用化を目指した研究	
							准教授	勝田 友博	分担	3,000,000	保健・医療・介護・行政データを統合した大規模データベースを活用したワクチンの有効性・安全性の検証に資する研究開発	
	小児科学	特任教授	川口 敦	代表	5,450,000	呼吸器外科学	主任教授	佐治 久	分担	100,000	臨床病期 I/II 期非小細胞肺癌におけるリンパ節郭清の縮小化の治癒的意義を検証するランダム化比較試験	
麻酔学	講 師	升森 泰	代表	1,836,364	適応障害（適応反応症）に対する新規心理社会的治療法の確立：反芻焦点化認知行動療法の研究プロトコール開発 電波式胸部運動センサの研究開発 シリーズ A2209 AI 技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究 心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立 患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究	小児外科学	講 師	大林 樹真	分担	100,000	リンパ管奇形に対する越婢加朮湯の効果を評価する臨床研究	
循環器内科学	主任教授	明石 嘉浩	分担	400,000		乳腺・内分泌外科学	主任教授	津川浩一郎	分担	1,000,000	非浸潤性乳がんの治療精密化に資する、多細胞遺伝子ネットワークに基づく新規リスク診断法の開発	
脳神経内科学	主任教授	山野 嘉久	分担	2,500,000		産婦人科学	主任教授	鈴木 直	分担	100,000	卵巣癌早期発見のための AI 血液診断モデルの開発ー癌関連糖蛋白と網羅的血清糖ペプチドピークデータを用いてー	
医療情報実用化マネジメント学 脳神経内科学	主任教授	山野 嘉久	分担	8,500,000	適応障害（適応反応症）に対する新規心理社会的治療法の確立：反芻焦点化認知行動療法の研究プロトコール開発 電波式胸部運動センサの研究開発 シリーズ A2209 AI 技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究 心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立 患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究	耳鼻咽喉科学	主任教授	小森 学	分担	766,000	真珠腫性中耳炎に対する自己由来鼻腔粘膜細胞シート移植治療に関するフォローアップ治験	
	主任教授	山野 嘉久	分担	16,500,000		放射線治療学	主任教授	中村 直樹	分担	1,000,000	肺尖部胸壁浸潤癌に対する化学放射線療法後の術前後デュアルパルプもしくはデュアルパルプ維持療法を併用した集学的治療に関する単群検証的試験（JCOG1807C）	
	主任教授	山野 嘉久	分担	12,834,000		放射線治療学 救急医学	主任教授	中村 直樹	分担	300,000	直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	
	主任教授	山野 嘉久	分担	2,000,000	適応障害（適応反応症）に対する新規心理社会的治療法の確立：反芻焦点化認知行動療法の研究プロトコール開発 電波式胸部運動センサの研究開発 シリーズ A2209 AI 技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究 心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立 患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究		主任教授	藤谷 茂樹	分担	4,500,000	新興・再興感染症流行に即応した医薬品開発に係る臨床研究を実施するための体制整備の基盤技術構築に関する研究	
	主任教授	山野 嘉久	分担	1,400,000	救急医学 総合診療内科学 感染症学 難治性疾患病態制御学	主任教授	藤谷 茂樹	分担	22,500,000	ドネペジルのドラッグリポジショニングによる COVID-19 後遺症治療薬の開発ー医師主導臨床治験ー		
	主任教授	山野 嘉久	分担	7,000,000		適応障害（適応反応症）に対する新規心理社会的治療法の確立：反芻焦点化認知行動療法の研究プロトコール開発 電波式胸部運動センサの研究開発 シリーズ A2209 AI 技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究 心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立 患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究		主任教授	家 研也	分担	400,000	感染症対策に資する数理モデルの実装と臨床感染症学との協働
	主任教授	山野 嘉久	分担	500,000		適応障害（適応反応症）に対する新規心理社会的治療法の確立：反芻焦点化認知行動療法の研究プロトコール開発 電波式胸部運動センサの研究開発 シリーズ A2209 AI 技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究 心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立 患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究		主任教授	國島 広之	分担	500,000	ダイナミック・コンセントを実装する先進的
	脳神経内科学 難病治療研究センター	主任教授	山野 嘉久	分担	24,000,000	適応障害（適応反応症）に対する新規心理社会的治療法の確立：反芻焦点化認知行動療法の研究プロトコール開発 電波式胸部運動センサの研究開発 シリーズ A2209 AI 技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究 心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立 患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究	難病治療研究センター	研究員	丹澤 和雅	分担	500,000	糖尿病デジタルデバイスの開発研究
		准教授	佐藤 知雄	分担				遺伝子情報に基づくトランスサイレチンアミロイドーシスの病態解明および個別化医療の実現を目的としたエビデンス創出研究				
		講 師	八木下尚子	分担				ゲノム情報を基盤とした HTLV-1 感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究				
脳神経内科学	講 師	山内 淳司	分担		適応障害（適応反応症）に対する新規心理社会的治療法の確立：反芻焦点化認知行動療法の研究プロトコール開発 電波式胸部運動センサの研究開発 シリーズ A2209 AI 技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究 心臓核医学検査による特発性心筋症病態層別化指標の確立 患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究	医療情報実用化マネジメント学	特任教授	渡邊 俊樹	分担	500,000	ゲノム情報を基盤とした HTLV-1 感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究	
	研究員	丹澤 和雅	分担				周産期発生病態解明学	大学院教授	長谷川潤一	分担	10,000	妊娠 28 週未満発症の早産期前期破水妊婦に対するアジスロマイシン投与による気管支肺異形成の予防法の開発
	特任教授	三橋 里美	分担	500,000				特任教授	三橋 里美	分担	12,000,000	希少難病に対する N-of-1+ 核酸医薬創薬研究 ロングリードシーケンスと iPS 細胞技術で解き明かす、

令和 4 (2022) 年度 公的・民間助成金 (競争的獲得資金) 獲得状況一覧

所属	職位	氏名	助成機関名	助成事業名	研究課題名	金額 (単位：円)
解剖学 生化学	助 教	井上 一步	(公財) 中富健康科学振興財団	研究助成金	運動による筋骨連関を介した腎臓老化の制御機構の解明	1,500,000
	助 教	土屋 貴大	(公信) 日本動脈硬化化予防研究基金	令和 5 年度 (2023 年度) 研究助成	ライリンによる LDL 受容体調節機構の解明ーライリンを標的とした脂質代謝異常治療薬の開発ー	1,000,000
免疫学・病害動物学	主任教授	宮部 斉重	(公財) 持田記念医学薬学振興財団	2023 年度 持田記念研究助成	病態の可視化から新規治療法開発に挑む	3,000,000
	主任教授	宮部 斉重	(一社) 日本リウマチ学会	JCR フロンティア研究者助成プログラム 2023	ループス腎炎における免疫細胞遊走メカニズムの解明並び新規治療標的の探索への挑戦	2,000,000
総合診療内科学 循環器内科学	助 教	片山 皓太	(一社) 日本病院総合診療医学会	研究助成金	医学生のベッドサイド学習時間と Mini-CEX との関連性	600,000
	助 教	奥野 泰史	(一財) 朝日インテック・宮田尚彦 医療技術支援財団	第 3 回医療技術・研究奨励金給付事業	TAVI 後 PPM の適切な評価方法の再検証	1,000,000
消化器内科学	主任教授	立石 敬介	(公財) 上原記念生命科学財団	2023 年度 研究助成金	クロマチン立体構造に基づく膀胱癌新規分子標的の同定	5,000,000
	助 教	加藤 正樹	アッヴィ 合同会社	2022 年度 研究助成金	炎症性腸疾患の新規バイオマーカー・病態関連候補血清ペプチドの網羅的解析	1,500,000
代謝・内分泌内科学	助 教	加納麻弓子	(公財) 上原記念生命科学財団	2023 年度研究奨励金	胚盤胞補完法を応用した MEN1 疾患モデルの確立	2,000,000
	助 教	加納麻弓子	(公財) 山口内分泌疾患研究振興財団	2023 年度研究助成	下垂体オルガノイドを用いた多発性内分泌腫瘍症 (MEN) 1 型疾患モデルの構築	1,000,000
小児科学 脳神経外科学	助 教	加納麻弓子	(公社) 日本女医会	学術研究助成	胚盤胞補完法を応用したマウス下垂体遺伝子改変技術の確立	300,000
	講 師	三浦 慎也	(一財) 医療経済研究・社会保険福祉協会	2023 年度 (第 27 回) 研究助成	重篤小児患者発生数の算出法の開発ー小児救命医療体制の適正化に向けて	993,500
救急医学	教 授	太組 一朗	厚生労働省	令和 5 年度障害者総合福祉推進事業	てんかん診療拠点病院等における心因性非てんかん性発作等の実態把握	5,949,000
臨床腫瘍学	非常勤講師	齋藤 浩輝	国立研究開発法人科学技術振興機構	2023 年度 戦略的創造研究推進事業 (さきがけ)	平時と有事をつなぐ感染症領域の “Platform of multi-platform trials” の社会実装	10,465,000
難病治療研究センター	助 教	久保田洋平	(公財) 臨床薬理研究振興財団	2023 年度研究奨励金	未治療の切除不能または再発食道癌に対する mFOLFOX6 + ニボルマブ療法の第 II 相試験	3,000,000
	講 師	宮部 千恵	(公財) 持田記念医学薬学振興財団	2023 年度 持田記念研究助成	病原体由来分子による血管炎誘導メカニズムの解明	3,000,000
難病治療研究センター	助 教	中島 誠	(公財) 臨床薬理研究振興財団	2023 年度研究奨励金	HTLV-1 関連脊髄症の炎症病態原因分子 MAP3K8 の同定と MEK 阻害剤の有効性に関する非臨床データの解析	3,000,000
	非常勤講師	勝井 恵子	(公財) 上廣倫理財団	令和 5 年度 研究助成	明治・大正期における医学者の西洋医学・西洋思想の受容に関する研究	500,000

※所属・職位・氏名は、調査当時となっております。

令和 5 (2023) 年度こども家庭庁科学研究費補助金等 交付決定者一覧

令和 6 年 3 月 31 日現在

所属	職位	氏名	代表・担	交付額 (円) ：直接経費	研究課題名
脳神経内科学	主任教授	山野 嘉久	分担	200,000	HTLV-1 キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究
小児科学	主任教授	清水 直樹	分担	1,200,000	子どもの死を検証し予防に活かす包括的制度を確立するための研究
	特任教授	川口 敦	分担	1,200,000	子どもの死を検証し予防に活かす包括的制度を確立するための研究
	助 教	松永 綾子	分担	300,000	子どもの死を検証し予防に活かす包括的制度を確立するための研究

◆ 令和5年度 国家試験結果報告 ◆

看護専門学校

第 113 回看護師国家試験を振り返って

教務係長 山下淳也

医学部

117 名の医師が誕生

国試委員会委員長 長田尚彦

2024 年 2 月 3 日 (土) 、 4 日 (日) に
行われた第 118 回医師国家試験は 3
月 15 日 (金) に結果発表され、本学
卒業生は 117 名 (新卒 105 名、既卒
12 名) が合格しました。合格率は全
体では 96.7% (全国平均 92.4%) と
受験生は非常に頑張ってくれました。
過去 2 年の国試の成績がコロナ禍の
影響もあり、やや苦戦をした結果で
あったこともあり、国家試験委員会
メンバー一同は内心少し安堵するこ
とができました。

国試全体の点数が上がっており、
一般臨床問題の合格基準は 230 点以
上 (昨年は 220 点以上) とボーダー
ラインが昨年より 10 点上がっており、
受験生全体のレベルが上がっている
ことが示唆されます。その中で新卒
合格率が 98.1% と過去最高の合格率
であったことは、我々が長年築き上
げてきた国試対策方法に間違いがな

かったことを示すことができている
のだと思っています。

また文部科学省から発表されてい
る大学別医学部の 6 年間ストレート
卒業率では、全国大学の平均値は約
80% 前後であるのに対して、本学の
ストレート卒業率は 90.4% (昨年発表)
と非常に高い値を維持しています。
そして今回も 6 年間ストレートに進
級した学生は全員が合格することが
できており、大学全体の教育環境は
正しい方向であると考えられます。

長い臨床実習期間に並行しての国
家試験対策に第 6 学年学生諸君は頑
張っております。第 6 学年担当教員
の皆様には引き続きご指導いただき
ますようお願いいたします。また、
本学、および関係する全ての皆様
にも厳しくも温かい御指導を今後も
変わらず賜りますようお願いいた
します。

2024 年 2 月 11 日 (日) に第 113 回
看護師国家試験が行われ、3 月 23 日
 (金) に合格発表がありました。全
国から 63,301 名が受験し、合格者は
55,557 名で、合格率は 87.8% でした。
本校からは、75 名が受験し、68 名が
合格、合格率は 92% という結果でし
た。今年度は全国平均が例年より低
下し、合格者数もかなり減少しまし
た。その中にある全国平均を上回る
高い結果を維持できたことは評価し
つつ、ここ数年の本校の合格率と
比較するとかなり厳しい結果となり
ました。

45 回生は卒業までの 3 年間で 100
単位 (3,030 時間) のカリキュラム
を修めると同時に、国家試験対策と
して、1 年次からの模擬試験導入や

ICT を活用した基礎知識の定着に向
けた配信学習、学内教員や業者によ
る学習支援対策などに取り組んでき
ました。新型コロナウイルス感染症
の蔓延と 5 類への変更の両方を経験
し、その状況に合わせた「講義・演習・
実習」の形態の変更を経験してきま
した。そのような状況でも看護師に
なる意志を強く持ち続け学習を継続
した結果、多くの学生が見事合格を
勝ち取りました。

当年度の結果の分析に従い明確な
対策のもと、知識・技術を兼ね備え
た質の高い看護師を育成し、残念な
結果に終わった学生を含めた本校の
学生全員が看護師となれるよう、支
援していききたいと思います。

附属病院 施設だより

❖ 西 部 病 院 ❖

大和市にて市民公開講座を開催

2 月 22 日 (木) 午後、やまと芸術文
化ホールにて市民公開講座を開催いた
しました。コロナ禍の影響もあって約
5 年ぶりの現地開催となりました。

今回は、神経精神科菅原一晃部長
より、ご自身の出身地である大和市
での開催について提案があり、あわ
せて大和市健康福祉部、大和市医師
会のご理解を得ることができたこと
もあって、大和市中で初めての開催
となりました。

「脳のおはなし」と題して、萩原悠
太郎長 (脳神経内科) から脳卒中に
ついて、中村歩希部長 (脳神経外科)
から脳・脊髄の外科治療について、

菅原一晃部長 (神経精神科) からは
認知症について、各々 30 分ずつ講演
が行われました。会場には 168 名の
方にご来場いただき、また大和市内
のクリニックの先生方にもお越しい
ただきました。

開催に向けてご協力いただいた関
係者の皆様、またチラシの配架やポ
スター掲示などでご支援くださいま
した大和市・旭区・瀬谷区の関係施設、
相模鉄道 (三ツ境駅、瀬谷駅、大和駅) 、
相鉄企業株、近隣商業施設の皆様に
この場をお借りして厚く御礼申し上
げます。

事務部 部長 前田光一郎

❖ 多 摩 病 院 ❖

「広報戦略室」を設置しました

新型コロナウイルスによって、こ
の数年間で世の中の状況は大きく変
わりました。コロナ禍を経て、現在
多くの病院では「集患」が喫緊の課
題となっています。

医療機関のステークホルダーは、
患者・家族だけではなくありません。
医師会をはじめとする職能団体・行政・
金融機関・医療関連企業・地元企業・
支援者など様々です。ステークホル
ダーと信頼関係を構築するには、日々
の接点を積み重ねるしかなく、これ
らの方々との繋がりを意識し、信頼
醸成に努めながら日々の医療経営・
管理をしていく必要があります。

多摩病院では、2024 年 4 月に積極
的な広報を展開するために、広報専
属の組織とした「広報戦略室」を設
置しました。

これまで、広報誌の作成や
YouTube での動画配信など様々な工
夫を凝らし、広報活動を継続して参
りましたが、今後は更なる広報戦略
を練り、当院での診療活動、地域貢
献及び運営状況等を病院の内外に広
く公開するなど、広報活動の推進を
図るという所期の目的を達成するた
めに、経営企画会議と連携のもと尽
力し、地域や市民から選ばれる病院
づくりに励んでいく所存であります。

総務課 課長 岡部政人

❖ プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック ❖

B&I ホームページがリニューアルされました

2023 年 7 月より、ホームページが
リニューアルされました。更なる患
者数増に繋げるために、当院の特色
である「乳がん医療専門施設である
こと、専門家によるチーム医療のも
と検診・診断・治療を行い、検査は
すべて女性検査技師が対応すること
で、患者さんが安心して受診できる

施設であること」を前面にアピール
いたしました。またモバイルで閲覧
する人が多い傾向を踏まえ、PC だけ
でなくモバイル端末からも見やすい
形に工夫しています。今後も患者動
向を見ながら、必要に応じてバージ
ョンアップしていきたいと思いま
す。

事務室 室長 小林 圭

募金のお願い

募 金 概 要

募 金 目 的 菅生キャンパスリニューアル計画 大学病院建替資金

目 標 額 50 億円

募 集 期 間 2018 年 9 月 1 日～ 2024 年 9 月 30 日 (約 6 年間)

募 集 金 額 個人 一口 2 万円 法人 一口 100 万円

1. 一口未満のご寄付、複数回のご寄付につきまして有難くお受け申し上げます。
2. 複数口でのご寄付もご高配賜りますようお願い申し上げます。

お申し込みの際し、ご不明点がございましたら
財務部寄付募集推進室までお問い合わせください。

詳しくは申し込みサイトをご覧ください。



募金のお申し込み

▶インターネットでのお手続き (お申し込み及び各種決済)

学校法人 聖マリアンナ医科大学 Web サイトから、ご寄付のお申し込みができますので
ご利用ください。

決済方法
をお選
び
いただけ
ます
>>>>>>



クレジットカード
決済



ATM (ペイジー)
決済



コンビニ
決済



インターネット
バンキング
(ペイジー) 決済

▶受配者指定寄付金制度をご利用の場合のお手続き

法人の皆さまは、日本私立学校振興・共済事業団を通じた「受配者指定寄付金」制度を
ご利用いただけます。

専用申込書等一式 >>>>>

「創立 50 周年記念事業募金 Web ページ」からダウンロードできます。

税の優遇措置

税
額
控
除

年間所得税額の 25% を限度として、
その年の寄付金の合計額から 2 千円
を差引いた金額の 40% が所得税額か
ら控除されます。

所
得
控
除

年間総所得額の 40% を限度として、
その年の寄付金の合計額から 2 千円を
差引いた金額が、その年の所得から控
除されます。

一住民税の寄付金控除

聖マリアンナ医科大学を「寄付金税額控除対象法人」として条例で指定している自治体 (「神奈川県」、「横
浜市」及び「川崎市」) では、所得税の確定申告をすることにより、個人住民税の寄付金税額控除を受け
ることができます。
詳細は各地方自治体 Web サイトをご参照ください。

個人情報の取り扱いについて

募金にご協力いただきました皆さまの個人情報
につきましては、創立 50 周年記念事業に関す
る業務のみに使用いたします。ご記入いただき
ました内容につきましては、「聖マリアンナ医
科大学個人情報保護方針および同規程」に則り
適正に管理・保管を行います。

お問い合わせ先

聖マリアンナ医科大学 財務部 寄付募集推進室
〒 216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1
TEL : 044-977-8111 (代) 内 : 5854, 5856
E-mail : bokin50@marianna-u.ac.jp
URL : http://www.marianna-u.ac.jp/contribution/50th/

聖マリアンナ医大新聞編集委員会 委員名簿

(2024 年 8 月 1 日現在)

※聖マリアンナ医大新聞は、年 2 回以上各 10,000 部を発行し各部署、附属病院、
附属施設、名誉教授、聖医会、保護者会、教育関連病院、官公庁他に配布して
おります。

- 委員長 藤谷博人 [スポーツ医学 主任教授]
- 委 員 船橋利也 [生理学 主任教授]
- 竹村 弘 [微生物学 主任教授]
- 大平善之 [総合診療内科学 主任教授]
- 鈴木昌子 [看護専門学校 校長]

- 中村孝史 [総務部 部長]
- 鈴木安鶴子 [教学部 参事]
- 前田光一郎 [西部病院事務部 部長]
- 松岡正代 [多摩病院広報戦略室 主幹]

- 清水朋子 [栄養部 部長]
- 日下部あずさ [看護部 師長]
- 奥島英明 [総務部総務課 課長]
- 内田絵海 [総務課]

